

1 診療科

(1) 総合診療科・救急科

[人事]

4月1日付で鈴木貴博が川崎病院総合診療科から異動となり、井田病院に創設された総合診療科部長に着任、川崎病院総合診療科担当部長兼務となりました。8月1日付で救急科部長に赴任した吉田哲が事情により11月末で退職し、12月から救急科部長兼務となった橋本副院長（外科部長）のもとで鈴木は救急医療運営委員会委員長となり、救急科部長業務を補佐しました。川崎病院救命救急センターから救急専門医である高橋俊介が10月末から赴任し火曜日を除く平日日勤帯に勤務しました。

[外来診療]

2期工事にて救急センターが完成するまでの間、救急外来は中央ケアルーム内に設置されました。高橋は救急隊からのホットラインに対応し、救急車で来院する患者の診療を行うとともに、研修医の指導や救急外来のマネジメントを行いました。また救急車で来院患者がいけないときには、内科救急当番が行うウオークイン診療にも必要に応じて積極的に関わりサポート・指導するとともに、外来看護師や研修へのミニレクチャーも行いました。

[診療実績]

救急外来受診総数は7,328名と、平成23年度の5,764名、平成22年度の4,992名と比較して格段に増えています。その内訳は平日日勤帯2,976名、夜間・休日4,352名でした。

来院方法別でみると救急車搬送2,981名（平日日勤帯1,041名、夜間・休日1,940名）と前年度の3,092名にやや届かなかったものの、ほぼ同数であるのに比較して、ウオークインが4,347名（平日日勤帯1,935名、夜間・休日2,412名）と前年度の2,672名と1.6倍増加しているのが特筆すべき点です。

また、平日日勤帯のホットラインによる救急車応需の統計を取り始めた8月以降、毎月救急車非応需を算出していますが、当初15～20%であった非応需率が1月以降は10%未満となり、1月8.6%、2月5.6%、3月6.3%と改善し、現在把握できている2013年4月は2.6%、5月は2.7%と改善しています。また、夜間・休日についても当初は35～40%でしたが、3月には31.1%となり、2013年4月30.8%、5月25.4%と改善している。中原区以北の救急隊員の感想でも、最近は井田病院で受けてくれるので、幸区まで行かなくて良くなったと高く評価されています。

[今後の展望]

総合診療科は内科後期研修を担当しています。卒後3,4年目を対象とした基本プログラムでは病気のみを診るのではなく悩める病人を診て、適切な診療を行うことのできるGeneral Physicianの養成を上位目標としています。方略としては総合医・総合診療科医としての基礎となる内科、救急総合診療を専門医のもとで学ぶ、地域オリエンティッドな緩和ケア・在宅ケア・往診などユニークな活動を行っている、かわさき総合ケアセンターでも学べる、必要に応じて相補的な関係にある川崎市立川崎病院において、内科・総合診療科、救命救急センター、その他でも学べる、というものです。また、内科認定医取得後の後期研修としての専門医コースでは、内科系各種専門医、緩和医療学会専門医、在宅医学

会専門医など各種専門医を取得できること、専門医コースからの研修開始も可能であることなど、当院の特徴・魅力を生かした研修をいろいろな機会やインターネット等で発信し、後期研修医の応募増加につなげていきたいと思っております。

特に救急科部長業務を補佐している職務を生かして、高橋とともに救急総合診療として救急外来 ER の場を研修医や若い内科スタッフの内科系救急の診断・救急初期治療を学べる魅力的な環境としていきたいと考えています。

(文責 総合診療科部長 鈴木 貴博)

(2) 内科

[人事]

病院局に転出された大曾根康夫副院長に代わって4月に川崎病院から鈴木貴博先生が総合診療科部長兼リウマチ科部長として赴任されました。同じ4月に緩和ケアセンター副所長として山岸正先生が、内科医長として糖尿病専門医の金澤寧彦先生が、緩和ケアセンター副医長に西智弘先生が赴任されました。さらに待望の血液内科専門医である定平健先生も4月に赴任され、当院の診療体制の充実が期待されています。

一方で4月末に中村光康消化器内科部長が退職、8月に奥佳代医長が、さらに3月に竜崎崇和内科部長が退職されました。

初期臨床研修では、2011年採用の長谷川先生、安田先生、龍神先生の3名が3月末で無事修了され、12年4月からは成松英俊先生、戸谷遼先生が研修開始されています(詳細は教育指導部参照)。

慶應大学内科学教室の後期研修医研修プログラムとして浦井秀徳先生が4月1日より赴任し、1年間の内科研修を行いました。

また、川崎病院との交流も深まり、川崎病院の後期研修医が井田病院で研修するシステムが1年続きましたが、2009年度より2ないし3ヶ月ごとに研修することになりました。

研修内容は主に①緩和・在宅部門、②腎臓内科、③呼吸器内科で、各研修医にどこに重きを置くかを選んでもらいました(詳細は総合診療科参照)。

[外来診療]

診療内容については各専門領域にて詳述。内科・ケア科の総合的業績について概要を記載するに留める。

2012年度のケアセンター含む当科の延外来患者数累計は69263名(2011年度68000名)であり1.9%の増となり、累計稼働額も937百万円(2011年度877百万円)と6.8%の増となりました。

[病棟診療]

2012年度の結核病棟・ケアセンター含む当科の延入院患者数累計は70101名(2011年度83028名)であり、新病棟移転に伴う減床のため15.6%の減となりましたが、累計稼働額は2450百万円(2011年度2623百万円)と6.6%の減少に留まり、在院日数の減少や救急患者・重症患者の受け入れなどに努力した成果と考えられます。

[在宅医療、検診など]

在宅医療は宮森センター長が多くを担っています。(※詳細については別項を参照。) また人間ドック、各種事業所の定期検診、地域住民の検診なども行っています。

[教育研修]

内科の各専門分野の医師が神経内科以外は一通りそろい、内科指導医は 17 名となりました。血液疾患については、慶應大学から派遣されている嘱託医の横山先生に、神経疾患に関しては、聖マリアンナ医科大学からの秋山先生、藤田先生、慶應大学からは岩崎先生にご指導を仰いでいます。

内科全員および病棟単位での定期的なカンファレンスや、抄読会、C P C、外部からの医師を招いてのカンファレンスも開催しています。

当内科では日本内科学会認定医制度の教育病院として認定されており、専修医(後期研修医)を 1 ないし 2 年の期間で受け入れ、指導に当たっています。各専修医はその研修期間に応じて 3 ないし 4 ヶ月ごとに内科系の 4 ブロックを順次ローテートし、各専門分野にわたって経験を積むようになっています。

厚生労働省が推進しつつある初期臨床研修医制度の下での研修病院の認定を、当院は 1999 年度末に得ましたが、研修病院としては他の一般的な内容に加えて次のような特色を持っています。

①当院には結核病棟があるので、専修医には結核患者を年間通して受け持ってもらっています。他の一般病院ではなかなか見られない肺結核の症例を豊富に経験できることは、当院における研修の特色の一つであります。

②当院はホスピス病棟を持っています。ここでは、避けられない死を前にして患者と家族を一体として診療の対象としています。ホスピスでの研修は **counseling mind** を以って、診療する良心的な医師を育てる好機であり、各科に共通するターミナルケアの真髄を学ぶことができます。専門医になるとままたれがち重要なポイントを、医師として初期の段階で経験しておくという、極めて意義深い内容を含んでいます。

③往診を含む在宅医療を容易に研修することができます。近年慢性疾患の予後が改善し、一線病院では在宅医療や病診連携の需要がますます高まりつつあります。その現場を臨床研修初期の段階で実際に経験しておくことは、研修医が将来どのような専門医になろうとも極めて有用です。この在宅医療・病診連携を取り扱う部門が当院の「総合ケアセンター」内に併設されており、ターミナルケアと併行して研修することができます。

④在宅持続携行式腹膜透析(CAPD)を研修できます。高齢者が増加した結果、在宅で腹膜透析をおこなう方が通院での血液透析よりも Q O L において優れていることが理解されてきました。当院では在宅 CAPD に力を入れており、その導入、維持管理、合併症治療などの研修を幅広くおこなうことができます。

⑤その他にエイズについても勉強する機会があります。

(文責 内科部長 伊藤大輔)

内科常勤職員（2013年4月1日）

氏名	職名	専門分野	
宮森正	ケアセンター所長	緩和ケア・在宅医療	
伊藤大輔	副院長・内科部長	消化器内科	2013.4.1 異動
鈴木貴博	診療部長・総合診療科部長	膠原病	
半田みち子	糖尿病内科部長	糖尿病・内分泌・代謝	
鈴木厚	地域医療部長	膠原病	
石黒浩史	肝臓内科部長	消化器内科・緩和ケア	
好本達司	循環器内科部長	循環器内科	
麻薙美香	教育指導部長	循環器内科	
西尾和三	呼吸器内科部長	呼吸器内科	
山岸正	ケアセンター副所長	緩和ケア・循環器内科	
塩見哲也	呼吸器内科担当部長	呼吸器内科	
高松正視	内科医長	消化器内科	
栗原夕子	内科医長	膠原病	
原田裕子	内科医長	循環器内科	
小林絵美	内科医長	腎臓内科	
金澤寧彦	内科医長	糖尿病・内分泌・代謝	
滝本千恵	内科医長	腎臓内科	
穴戸崇	内科副医長	腎臓内科	
會田信治	内科副医長	呼吸器内科	
定平健	内科副医長	血液内科	
西智弘	ケアセンター副医長	緩和ケア	

非常勤医師および後期研修医（2013年4月1日）

非常勤医師

猪原明子	糖尿病・内分泌・代謝
佐藤将之	緩和ケア

後期研修医

浦井秀徳	腎臓内科	
村瀬樹太郎	緩和ケア	
小柳純子	緩和ケア	
丹保公成	総合内科	2013.4.1 異動
荒川健一	総合内科	2013.4.1 異動